

## 早期終息の願い込め 被災地に支援物資を送る

市では、熊本地震で被害を受けた大分県由布市へ4月20日、同市から要望のあった飲料水4千ℓを送りました。物資は、災害時緊急輸送協定を結んでいる県トラック協会登米本吉支部が用意した大型トラックへ積み込み出発。21日早朝に現地へ到着しました。

また、同19日に粉ミルク80kgを熊本県菊池市へ、現地の民間業者を通じて送りました。由布市とは、旧迫町と旧挾間町が姉妹都市、菊池市とは全国ポート場所在地相互応援協定を結んでいます。地震により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。



布施市長は「安全運転で、いち早く物資を届けてください」とドライバーに声をかけ、トラックを送り出しました

## 復興に向けて加速化 三陸道三滝堂ICが開通

三陸自動車道の登米東和―三滝堂インターチェンジ（IC）間の2kmが4月16日、開通しました。県内での三陸道の延伸は、東日本大震災以降初めてとなります。

当日は、三滝堂ICで関係者がテープカット。2日前に発生した熊本地震を受けて、式典ではなく「開通の感謝を伝える会」を開催しました。会には山田義輝副知事など約150人が参加。布施孝尚市長は「沿岸部に向かう足掛かりが生まれたことをうれしく思う」とあいさつを述べました。

開通区間の総事業費は約70億円。今後、三滝堂ICには、道の駅の整備を予定しています。



開通に感謝し、関係者たちが「走り初め」をしました。三滝堂―志津川IC（仮称）は、本年度中に開通予定です

## 健康づくり一歩ずつ 長沼湖畔でウォーキング

第5回メイヤーズウォークin長沼は4月23日、長沼周辺を会場に開催しました。約80人の参加者は晴天の下、布施市長との会話と春の長沼の風景を楽しみながら歩きました。

今回は「東北風土マラソン&フェスティバル2016」のマラソンコースを利用。参加者は思い思いのペースで歩き、心地よい汗をかきました。

迫町光ヶ丘の佐々木勇男さんは「今回、初めて参加しました。週2、3回、30分ほど歩いていますが、思ったより疲れませんでした。いつもと違う場所を、多くの人たちと歩くのは楽しいですね」と感想を話しました。



参加者はウォーキング終了後、風土フェスティバルで東北各地のおいしい料理を楽しみました

## 登米から世界に向け ひとめぼれブランド認証

登米ブランド推進協議会では、南方町水稻部会有機の会が生産する有機栽培米ひとめぼれを、登米ブランドに認証しました。ひとめぼれの認証は初めてで、認証品目は9品目となります。

認定書授与式は4月6日、市役所迫庁舎で開かれ、同会の菅原秀雄さん、佐々木徳久さん、後藤輝彦さんが出席しました。

認定書を受け取った菅原さんは「一番厳しい基準で作る有機栽培米なので、甘さが特徴の味や品質には自信があります。将来的には、海外輸出も考えています」と意欲を示しました。



布施市長は「皆さんの取り組みは、登米産米全体のPRになります。頑張ってください」と激励しました

## 伊豆沼を見て触れて サンクチュアリセを改装

環境教育の推進を目的に改装していた、登米市伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターが完成。リニューアルオープンセレモニーは4月30日、同所で開催され、市や地域住民など関係者ら約40人が出席し完成を祝いました。

改装したセンター内には、大型水槽や円形水槽、小型水槽を設置。伊豆沼に生息している魚類を中心に展示しています。また、魚に直接触れられるタッチプールや検索用のタブレット端末などを完備しています。

佐沼小2年の渡辺雅也君は「以前よりきれいで見やすくなりました」とリニューアルを喜んでいました。



事業費は約4100万円で、みやぎ環境交付金事業を活用。太陽光発電パネルの設置や照明をLED化し、自然環境に配慮しています

## 33年ぶり「ご開帳」 柳津虚空蔵尊秘仏ご開帳

約1300年の歴史を持つ柳津虚空蔵尊で4月13日から5月15日まで、33年に1度となる本尊（秘仏）が開帳されました。期間中、柴灯護摩修行や稚児行列などが催され、県内外から多くの参詣者が訪れました。

4月17日には「柴灯護摩修行」を開催。東日本大震災からの復興に加え、熊本地震の犠牲者追悼と早期終息への願いを込めて「少年山伏」や参詣者が、護摩壇を焼いてきたばかりの灰の上を素足で歩きました。

大崎市から訪れた鈴木健治さん一家は「家族の健康と、災害で犠牲になった皆さんや早期の復興への願いを込めて、火渡りをしました」と話していました。



当時はあいにくの雨にも関わらず、多くの参詣者が訪れ、少年山伏に続いて火渡りをしました